

# 関西医科大学 広報



## 新たなる年に 関医タワー竣工

Vol.56

### CONTENTS

法人：理事長年頭所感

P.1

大学：研究最前線

P.17

トピックス：リカレントスクール文部  
科学省補助事業採択

P.9

大学：救急医療功労者厚生労働大臣表彰

P.19

大学：学術祭・ひらかた市民大学

P.15

病院：大阪コロナ重症センター開設

P.21

## 理事長年頭所感・学長、部署長挨拶

1月4日(火) 16時から枚方キャンパス医学部棟加多乃講堂において「理事長年頭所感表明」が行われ、牧野キャンパスリハビリテーション学部棟、総合医療センター、香里病院、およびくずは病院に同時中継されました。

山下敏夫理事長は年頭の挨拶を述べた後、「教育」「研究」「診療」「法人」についての本学の現状を説明。また今後の計画や方針・目標を語りました。

また、今年も昨年引き続き新型コロナウイルス感染症の影響に鑑み賀詞交換会は中止となりましたが、理事長の年頭所感表明に続いて、加多乃講堂では学長、附属病院長から、リハビリテーション学部棟、総合医療センター、香里病院、くずは病院においては、それぞれ部署長から挨拶がなされました。



友田学長

### 枚方学舎

枚方キャンパス医学部棟加多乃講堂において友田幸一学長が新年の挨拶を述べ、関医タワーに開設される国際化推進センターの4つの部門(国際広報部門、国際研究部門、国際交流・教育部門、国際医療支援部門)の役割や人材配置について語りました。またTHE世界大学ランキングにより世界から関西医大への注目度が上がっている今、更なる発展を目指すための協力を呼びかけました。

附属病院松田公志病院長は、開院当時からの附属病院の成長について語り、100周年に向けて今後も日本一の病院であり続けるため、是非協力いただきたいと締めくくりました。



松田病院長

### 牧野学舎

牧野キャンパスリハビリテーション学部棟3階大会議室2でリハビリテーション学部飯田寛和学部長から年頭挨拶が行われ、「1つの学部を作り上げていく経験は大変に貴重なものです。次の春には新たな学年も入学してきますので、両学科が手を携えて、ますます学部を発展させていきましょう」と集まった教職員に語りかけました。



飯田学部長

### 総合医療センター

総合医療センター南館2階臨床講堂に総合医療センターと天満橋総合クリニックの責任者らが集合し、総合医療センター杉浦哲朗病院長による挨拶に耳を傾けました。病院長は新型コロナウイルス感染症患者を集中的に受け入れたスタッフの努力に謝意を伝え、またコロナ後を見据えて、機能評価受審および西館建設などの事業に向けて引き続き力を尽くしてほしいと呼びかけました。



杉浦病院長

### 香里病院

香里病院岡崎和一病院長から香里病院8階会議室に集まった教職員に向け年頭挨拶が行われ、総合診療医学講座の設置や、急変患者対応のため設置するERの開設により、今後も北河内地域でより信頼される急性期病院を目指したいと述べ、「今年も基本的な感染予防対策を徹底して日々の診療に励んでほしい」と締めくくりました。



岡崎病院長

### くずは病院

くずは病院2階地域医療連携ラウンジに各部署の責任者ら約20名が参集し、くずは病院高山康夫病院長による挨拶が行われました。昨年後半は外来数や手術件数も増加し、急性期医療の病棟を始め各部署が慌ただしかったことに触れ、スタッフへの感謝を述べました。また、「各個人が新型コロナウイルスの感染拡大防止につとめ、引き続き地域への貢献を続けていられるよう宜しくお願いします」と締め括りました。



高山病院長



## 外科学講座上部消化管外科(附属病院)担当診療教授に就任して

外科学講座上部消化管外科(附属病院)担当診療教授 井上 健太郎



令和3年12月1日付で外科学講座上部消化管外科(附属病院)担当診療教授を拝命しました。平成5年に関西医科大学を卒業し、関西医科大学外科学講座で中根恭司教授のご指導のもと胃がん診療に研鑽してまいりました。平成12年には腹腔鏡手術が登場し、手術に革新がございました。腹腔鏡手術は2次元変換された視野で、直線的な鉗子で手術を行います。私はそのような状況でも開腹手術と同様に切離や縫合ができる技術を取得しようと自作シミュレーターで研究と練習を継続しました。現在は、内視鏡下縫合・結紮手技講習会のインストラクターにも選ばれ、肥満や糖尿病に対する減量・代謝改善手術も行っています。

関西医科大学附属病院では減量・代謝改善手術を健康

科学センター(木村穰教授)の強力なサポートで行っており、肥満症外科手術認定施設にも選定されています。

最新のニュースとして、令和3年9月に刊行された日本肥満症治療学会・日本糖尿病学会・日本肥満学会の合同ステートメントではBMI35kg/m<sup>2</sup>の糖尿病に対して手術が推奨されることになりました。胃がん手術だけでなく、減量・代謝改善手術の発展にも貢献できるよう、これからも努力してまいりますので、今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

### 略歴

平成 5年 6月	関西医科大学第2外科学講座	研修医
平成18年 1月	関西医科大学外科学講座	助教
平成24年 2月	関西医科大学外科学講座	診療講師
平成24年 4月	関西医科大学外科学講座	講師
平成26年 4月	関西医科大学外科学講座	准教授
令和 2年 4月	関西医科大学附属病院	病院教授
令和 3年12月	関西医科大学外科学講座上部消化管外科(附属病院)	担当診療教授

## 関医タワーについて

枚方キャンパス内に建設中の関医タワーは、患者さんやそのご家族用の宿泊機能を備え、また本学のグローバルゼーションへのシンボルとして国際化推進センターが設置される予定です。病院と同一敷地内に患者さんやそのご家族用の宿泊機能を備えた建物を有する病院は、国内でも非常に例の少ないものとなっています。タワー内にはその他に留学生のための寮室等が入る予定で、竣工は今春を予定しています。

## 「医師の働き方改革を考えるセミナー」開催

令和3年12月16日(木)15時から、枚方キャンパス医学部棟加多乃講堂において、医学部4学年を対象に、厚生労働省による「労働法教育事業」モデル講義「医師の働き方改革を考えるセミナー」が実施されました。

これは、厚労省が医療従事者の働き方改革を推進していくうえで、学部生に労働法を周知することを目的に、今年全国の3つの大学において、モデル講義を展開しているものです。本学は、東京大学、東北大学とともに、このモデル講義実施校となりました。

第1部では「働き方改革の今とこれから」と題し、大阪医科薬科大学一般・消化器外科学教室河野恵美子先生、附属病院松田公志病院院長が、続く第2部では「医師の働き方改革講座」と題して弁護士法人天満法律事務所

前川宙貴弁護士が講演を行いました。



講演で学生に語り掛ける松田病院院長

## 関医・看護師リカレントスクールが文部科学省の補助事業に採択

本学は、令和3年6月11日(金)、文部科学省「令和2年度就職・転職のための大学リカレント推進事業(就職・転職支援のためのリカレント教育プログラムの開発・実施)」の実施者に採択されました。

本学では平成31年度から、関医・看護師リカレントスクールを開講して、潜在看護師の復職支援に取り組んできましたが、令和3年4月に新たに設立された「看護キャリア開発センター」に本スクールの業務を移管し、当センターを中心に本事業に取り組んでいます。また本事業の採択を機に新たに「感染症対応に長けた看護師の育成」「長寿社会、Society5.0などの進展に伴う新しい社会に対応できる看護師の育成」を追加し、一人でも多くの看護師の現場復帰・キャリアアップを実現させるプログラムを編成しました。そして令和3年10月18日(月)、受講生32名を迎え第5期「関医・看護師リカレントスクール」が開講しました。

スクールは、iPadを使ったりリモートによる講義とeラーニングによる自宅学習、2クラスに分けた演習、OSCEやプロジェクト学習でのグループワーク、就職を見据えた病院実習を行いました。また、カリキュラムの初期・中期・後期には個人面談を企画し、復職への不安や技術の修得、家族の協力体制などの課題に対応しました。最終段階の就職支援では、北河内メディカルネットワークを含む大阪府下の医療施設、大阪府看護協会・大阪府ナースセンター等の参加16施設のブースを設け就職相談会を開催しました。

## 第5期「関医・看護師リカレントスクール入校式・修了式」

令和3年10月18日(月)枚方キャンパス医学部棟4階中会議室において、第5期「関医・看護師リカレントスクール入校式」が挙行され、受講する32名が入校式に臨みました。

教職員8名が臨席する中、金子一成リカレントスクール長からの告示に続き、受講生代表の決意表明が行われました。PCR検査を実施して開催された2か月間のプログラムで、知識や技術、演習や実習などすべての課程を終えた30名には、12月10日(金)の修了式において、スクール長より修了証書が手渡されました。



入校式の様子

## 看護キャリア開発センターの活動

看護キャリア開発センターは、令和3年4月に設置されました。当センターの目的は、看護学部生のキャリア形成支援とすべての看護職のキャリア支援、復職支援や地域貢献などの活動を通して看護実践と教育の質の向上を図ることです。今まで別の部門や各病院で行っていた活動を右記の5部門に集約して取り組んでいます。

- ① 卒前と卒後の教育・研修・看護実践支援
- ② 看護師特定行為研修支援
- ③ 専門・認定看護師活動支援
- ④ 看護研究支援
- ⑤ 関医・看護師リカレントスクール

# 「施設設備整備拡充事業資金」の募集のご案内

本学は昭和3年大阪女子高等医学専門学校の設立以来、日本をリードする医科大学を目指し着実に発展を続けてまいりました。現在、医学部・看護学部・リハビリテーション学部を擁する医療系複合大学として、次代へ向けてさまざまな事業が計画されております。学生の学びのため、世界に開かれた魅力ある研究環境のため、皆様からの格別のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

◆募金室では、個人・法人からのご寄付と遺贈寄付をお受けしております。

## 個人・法人からのご寄付

募集要項	
募集対象	保護者、同窓会員、本学関連の個人及び法人、その他
募集期間	令和4年3月末日まで

### 募金のお手続き

- 申込書提出**
  - 募金室へ寄付申込書をご記入の上ご提出ください。
  - ・申込書はホームページに掲載しております。
  - ・メールに添付、または必要事項を本文にご記入の上、送信いただいても結構です。
- お振込み**
  - 募金専用口座へお振込み下さい。
  - ・インターネットバンキングからお振込み
  - ・振込用紙を使用し窓口にてお振込み ※本人確認が必要です
  - ・ATMからお振込み ※上限額がございます
- 確定申告**
  - 確定申告いただくと所得税が減税されます。
  - ・募金室より寄付金受領書と減税証明をお送りします。
  - ・住民税減税対象はお住まいの自治体によって異なります。

税制上の優遇措置	
個人	所得税・住民税が合計で最大40%が減額されます。
法人	受配者指定寄付金制度を利用すると寄付金全額を損金算入できます。 ※制度についてご説明いたしますので、ご検討の際は募金室へご連絡ください

ご希望がございましたら、募金室より申込書、申込書送付用封筒(切手不要)、振込用紙をお送りいたします。

なお、この募金の応募は任意です。

## 遺贈寄付

### ●遺言によるご寄付

遺言によって本学に寄付する制度です。

- ・ご遺言を確実に執行するために、信託銀行をご紹介します。

### ●遺言によるご寄付



【ご紹介先】  
三井住友信託銀行  
大阪本店法人業務部第三課  
(06-6220-2515)

三菱UFJ信託銀行  
梅田支店  
(06-6313-2581)

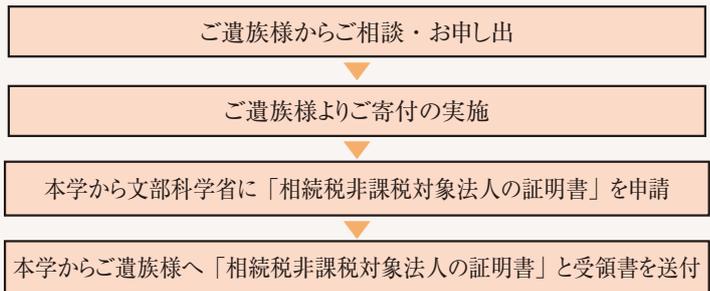
信託銀行を利用して遺言信託をする場合、信託銀行へ手数料が発生します。

### ●相続財産によるご寄付

故人様のご遺志により相続人様が、相続財産から本学に寄付する制度です。

- ・本学にご寄付された金額を申告により相続税非課税にできます
- ・現預金のみお受けしております。

### ●相続財産によるご寄付の流れ



このあと、ご遺族様にてご逝去された日より10ヶ月以内に相続税の申告・納付をお願いいたします。

令和3年10月から令和3年12月までにご寄付いただきました方々のご芳名を掲載させていただきます。ご芳志に対して衷心より感謝申し上げます。

ご芳名のwebサイトでの掲載は控えさせていただきます。

### お問い合わせ先

法人事務局募金室  
〒573-1010 大阪府枚方市新町二丁目5番1号  
TEL：072-804-2146 FAX：072-804-2344 メール：bokin@hirakata.kmu.ac.jp  
ホームページ <https://www.kmu.ac.jp/donation/index.html>



# 今号掲載期間の主な出来事をご紹介します (記事掲載はオレンジ太字)

法人	10月18日	第5期 関医・看護師リカレントスクール入校式		
	10月21日	北河内メディカルネットワーク(KMN)能力開発研修		
	11月25日	北河内メディカルネットワーク(KMN)医療安全共同研修		
	12月10日	第5期 関医・看護師リカレントスクール修了式		
	12月16日	厚生労働省「労働法教育事業」モデル講義		
	12月23日	目標チャレンジ制度優秀者表彰		
	12月23日	オール女性医師キャリアセンターキックオフイベント		
	1月4日	理事長年頭所感表明・学長、部署長挨拶		
大学	10月7日	がんプロ講演会		
	10月15日	第2回大学院企画セミナー		
	10月17日	慈仁会個別懇談会		
	10月27日	第91回解剖体追悼法要、解剖体慰霊碑供養		
	10月30日	看護学部保護者懇談会		
	10月30日	リハビリテーション学部保護者会、総会等		
	10月30日、31日	霜月祭		
	11月4日	実験動物慰霊祭		
	11月5日、6日	学術祭、ひらかた市民大学		
	11月6日	故田代裕元学長を偲ぶ会		
	11月10日	リハビリテーション学部防火訓練		
	11月20日	ひらめきときめきサイエンス		
	10月21日	医療ニーズ発表会		
	12月6日	外科学講座ヴィリニクス大学合同講義		
	12月16日	「労働法教育事業」モデル講義		
12月20日	起立性調整障害等のための治療法および治療器具の開発プロジェクトキックオフミーティング			
12月21日	国際交流フォーラム			
附属病院	10月2日		地域連携Webinar	
	10月16日		災害訓練	
	11月19日		がん教育講師派遣	
	12月9日		私大協相互ラウンドZoom開催	
	12月22日		子ども病棟クリスマス会	
総合医療センター	10月		抗体治療バックアップ病院指定	
	11月6日		糖尿病デーフェスタ	
	11月13日		地域連携Webセミナー	
	12月1日		大阪コロナ重症センター開設	
香里病院	10月17日		日曜乳がん検診	
	11月26日		消防訓練	
くずは病院	10月22日		第1回整形外科紹介症例検討会	
卒後臨床研修センター	10月9日、10日		指導医養成講習会	
	10月31日		看護師特定行為研修	
	11月2日	第1回臨地実習指導者研修		
	11月19日	臨床研修病院第三者評価受審		
	11月19日	大学院医学研究科修士課程入試説明会		
	11月26日	大学院医学研究科博士課程入試説明会		

附属病院地域連携Webinar

リカレントスクール講義

看護学部保護者懇談会

総合医療センター地域連携Webセミナー

国際交流フォーラム

## 地域医療連携推進法人北河内メディカルネットワーク (KMN) 研修会開催

本学が社員として参加する地域医療連携推進法人北河内メディカルネットワーク (KMN) において、令和3年10月21日(木) 13時からZOOMを利用した能力開発研修が実施されました。研修は「ティーチング」をテーマとして、幅広い職種の職員を対象に開催されました。KMN参加施設のうち11病院から、看護職、医療技術職、事務職など計36名が参加し、講義に加えてグループワークが行われ、部下や後輩の指導や教育に関する意見交換が行われました。

また、同年11月25日(木) 15時から附属病院医療安全管理部の協力のもと医療安全共同研修が実施されました。看護学部精神看護学領域三木明子教授が「医療機関における暴力・ハラスメント対策」について、ZOOM

で講演。医療現場での事件や職場暴力の分類、職員の研修・訓練の実施についてなど幅広く取り上げられ、KMN参加施設の院長や看護部長、医事課職員をはじめとする多くの職員ら計90名が聴講し理解を深めました。



医療安全共同研修で講演を行う三木教授

## オール女性医師キャリアセンターキックオフイベント開催

令和3年12月23日(木) 17時30分から医学部棟1階第一講義室において、『キャリアプランもライフプランもあきらめない！～知っておきたい各種制度のご紹介～』と題してオール女性医師キャリアセンターキックオフイベントが行われました。厚生労働省の補助事業採択を受け同センターは活動の幅を広げており、その一環でこのイベントが企画されました。

当日はオール女性医師キャリアセンター植村芳子センター長(病理学講座診療教授)による開会あいさつに続き、センターの役割や取組が紹介されました。その後は産前・産後休暇や育児休業、介護、看護等の各種休暇制度、本学独自の制度である短時間勤務正職員制度などの

医師支援制度に関する説明が行われた他、附設保育所や病(後)児保育支援制度、ベビーシッター派遣サービスの紹介が行われました。



開会あいさつを述べる植村センター長

## 慈仁会個別懇談会を開催

令和3年10月17日(日) 13時から枚方キャンパス医学部棟 2階会議室および3階学生セミナー室において、慈仁会個別懇談会が開催されました。

本年度は、新型コロナウイルス感染症感染拡大の影響により慈仁会全国懇談会、クラス別懇談会は中止し、個別懇談は希望する保護者に対して実施しました。予め開始時間を指定し、3密を避けるために来学者は保護者1名と限定するなど感染対策を徹底し、大学での滞在時間が短くなるように協力を呼びかけました。143名の保護者が参加し、各学年のクラスアドバイザーと対面形式により面談を行いました。

## 看護学部保護者懇談会開催

令和3年10月30日(土) 11時から枚方キャンパス看護学部棟講義室2において「看護学部保護者懇談会」が開催されました。今回は新型コロナウイルス感染症の感染対策としてオンラインでの参加も受け入れました。全体会では友田幸一学長、片田範子学部長の挨拶に続き、加藤令子教務部長、三木明子学生副部長、近藤麻理国試対策委員長から、学修の進捗状況や学生生活、国家試験対策について報告されました。その後は各学年のクラス担任から、学生の様子が報告され、参加した保護者は熱心に耳を傾けていました。全体会終了後は、事前申し込みのあった希望者を対象に、個別面談が行われ、あわせてシミュレーターの見学会も実施されました。

## 令和3年度「リハビリテーション学部保護者会役員会・総会」等開催

令和3年10月30日(土) 11時から、牧野キャンパスリハビリテーション学部棟において、リハビリテーション学部1学年の保護者17名が参加し、保護者総会が開催されました。友田幸一学長、飯田寛和学部長の挨拶に続き、中野治郎副学生部長から学生生活の様子等について、佐藤春彦教務部長からは新型コロナウイルスの影響に伴う修学状況等について報告されました。その後は、新たに就任した松森恵理会長が議長となり、令和3年度リハビリテ

ーション学部保護者会事業計画、令和3年度予算(案)等が審議され、全ての議事が賛成多数により承認されました。総会終了後には、リハビリテーション学部教員との懇話会が催され、学生・保護者の希望者にはチューターとの面談が実施されました。

### 令和3年度関西医科大学リハビリテーション学部保護者会役員

・会長	松森 恵理	・理事	木村 和男
・理事	原田 義広	・監事	木村 祐子

## 第91回解剖体追悼法要、解剖体慰霊碑供養

令和3年10月27日(水) 10時から臨済宗建仁寺派大本山建仁寺(京都市東山区)において第91回解剖体追悼法要が営まれました。新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、当初の日程を延期のうえ、感染拡大防止の観点から学内関係者のみで執り行われ、白菊会役員、友田幸一学長をはじめとする教職員、本学医学部学生代表が参列。施主代表の友田学長が追悼の言葉を述べた後、僧侶による読経が捧げられ、参列者による焼香が行われました。

その後、11時から同寺塔頭正伝永源院において、解剖体慰霊碑供養が営まれました。僧侶による読経が捧げら

れ、参列者は哀悼の意を込めてご冥福をお祈りしました。



追悼の言葉を述べる友田学長

## 第47回実験動物慰霊祭挙行

令和3年11月4日(木) 14時から枚方キャンパス医学部棟加多乃講堂において「第47回関西医科大学実験動物慰霊祭」が執り行われ、友田幸一学長や木梨達雄副学長(研究担当)をはじめ、動物実験に関わる教職員が列席しました。冒頭、参加者全員で黙とうを捧げたのち、附属生命医学研究所実験動物飼育共同施設平野伸二施設長(生物学教室教授)が、これまでの医学の発展における実験動物の存在意義と重要性、そして今後も社会的に適切に動物実験を行っていく必要性を述べ、慰霊の辞を捧げました。その後も研究者や教職員が次々に慰霊を訪れ、

尊い命を捧げた実験動物の冥福を祈りながら菊の花を手向けました。



献花台の前で慰霊の辞をのべる平野施設長

## がんプロセミナー開催

令和3年10月7日(木) 18時から、枚方キャンパス医学部棟加多乃講堂において、がんプロセミナーが開催されました。今回は関本クリニック関本剛院長(本学同窓生)が講師として「がんになった緩和ケア医が語る『残り2年』の生き方、考え方～median survival timeを迎えて思うこと～」と題して講演。令和元年10月にStage4の肺がんと診断され、現在抗がん治療を受けながら地域緩和ケア医としての業務を継続している関本院長が、がん患者となってから約2年で行ってきた終活と、治療開始時に「生存期間中央値」と説明を受けた2年を迎えるにあたって見えてきた風景などに関して、自身が執筆した本の出版や「人生会議」の話題に触れながら語りました。セ

ミナーには、オンラインも含め教職員他174名が参加。講演後の質疑応答では聴講者から熱心な質問がなされました。



聴衆に語り掛ける関本院長

## 令和3年度 第1回・第2回大学院医学研究科企画セミナー開講

令和3年9月3日(金)と10月15日(金)、いずれも17時30分から枚方キャンパス医学部棟加多乃講堂において、大学院医学研究科企画セミナーが開催されました。

司会は外科学講座関本貢嗣教授が務め、第1回は大阪大学大学院医学系研究科保健学専攻未来医療学寄附講座澤芳樹教授を講師に迎えました。「心臓血管外科学 ～私の歩んだ道～」と題した講義の中で、自身の40年の経験から心臓血管外科学領域における低侵襲化の発展や重症心不全への対応の進化、今後の展開・将来像などが解説され、本学教職員の他学内外から61名が出席しました。

続く第2回は、独立行政法人地域医療機能推進機構(JCHO)大阪病院西田俊朗病院長を講師に迎えました。「がんゲノム医療の実装と臨床開発の現状」と題した講

義の中で、がんゲノム医療の現状や今後の展開と課題について紹介され、教職員や大学院生ら44名が参加しました。

両日とも出席者が熱心に聴講する様子が見られ、セミナーは盛り上がりを見せました。



講演する澤教授(第1回)



講演する西田病院長(第2回)

## 故田代裕元学長を偲ぶ会挙行

令和3年11月6日(土) 15時から、枚方キャンパス医学部棟加多乃講堂において故田代裕元学長を偲ぶ会が行われ、山下敏夫理事長、友田幸一学長他教職員および関係者121名が参列しました。開式の辞に続いて参列者全員での黙祷が行われた後、生理学講座中村加枝教授による田代元学長の経歴紹介が行われました。続いて友田学長、山下理事長、関西医科大学同窓会秋田光彦会長からそれぞれ田代元学長を偲ぶ言葉が述べられました。その後、ご遺族を代表して田代元学長のご子息、田代啓氏から謝辞が述べられました。引き続き、代表者による献花、参列者による献花が行われました。



故田代元学長を偲んで設けられた祭壇

## 第5回学術祭開催

令和3年11月5日(金)・6日(土)、枚方キャンパス医学部棟1階オープンラウンジにおいて、「第5回学術祭」が開催されました。これは、本学における学術研究の更なる進展を目的に、これまで行われていた「学内学術集談会」を発展させたもので、今年で5回目の開催となりました。

初日は8時50分に友田幸一学長による開会の辞、解剖学講座北田容章教授による挨拶で幕を開け、両日とも多くの参加者が訪れました。

### 第5回学術祭

#### 【主なプログラム】

#### ■医学部・看護学部・リハビリテーション学部合同シンポジウム

「地域社会における健康について考える～関医創立100周年に向けて～」

医学会委員長である西山利正教授(衛生・公衆衛生学講座)が座長を務め、医学部、看護学部、リハビリテーション学部より6名のシンポジストが「地域」「高齢者」「健康増進」「フレイル」をキーワードとした演題の発表を行いました。

#### ■KMU研究コンソーシアム

木梨達雄副学長の総合司会のもと、7名の演者から取り組んでいる研究の概要が発表されました。

#### ■ランチョンセミナー

「心と体のレジリエンス(回復力)を高める漢方医学～漢方補腎薬の抗サルコペニア作用について」

大阪大学大学院医学系研究科先進融合医学共同研究講座 萩原圭祐特任教授による講演が行われました。

#### ■「医学会賞応募演題口演」

10名の演者による口演が行われました。※受賞者は4月発行予定の「広報Vol.57」にてご紹介する予定です。

#### ■「ポスター展示・フリートーク」

エントランスホールにて、若手研究者や留学生、大学院生、研究医養成コース学生らによる「ポスター展示」が行われました。それぞれのポスターの前では参加者同士の活発なフリートークが見られました。

#### 【ポスター受賞者】

留学生 1位：Tran Nguyen Truc Linh (内科学第二講座)

令和2年度学内研究助成D1(若手研究者) D2(大学院生)

1位：村田 紘未 講師(産科学・婦人科学講座)(D1)

2位：吉田 彩 診療講師(産科学・婦人科学講座)(D2)

令和2年度学内研究助成E(研究医養成コース)

1位：中島 啓子(解剖学講座)(E)



開会の辞を述べる友田学長



第5回学術祭ポスター



ポスター展示の様子



医学部・看護学部・  
リハビリテーション学部  
合同シンポジウムの様子

### ひらかた市民大学

令和3年11月6日(土) 11時から、枚方キャンパス医学部棟1階オープンラウンジにおいて、ひらかた市民大学が開催されました。このイベントは、本学も参画する学園都市ひらかた推進協議会及び枚方産学公連携プラットフォームの事業として毎年開催されているものです。枚方市内の大学の専門的な知識・情報を学習できる講座を市民の皆さんに提供しています。

今年は「起立性調節障害の理解と運動療法・機器の開発」をテーマに小児科学講座石崎優子准教授が講演を行いました。自律神経の不調から生じる起立性調節障害の原因や治療方法について解説したほか、7月に呼びかけ反響を呼んだクラウドファンディングについて説明し、参加した市民の皆さんが熱心に聴講する様子が見られました。



石崎准教授の講演に耳を傾ける参加者

## 霜月祭2021 [le rond]

令和3年10月30日(土)・31日(日)の両日、「霜月祭2021」が開催されました。今年は密を回避するために参加を学内関係者や関連施設勤務者に限り、開催場所も淀川河川敷を使用するなど感染予防対策に十分配慮したうえで開催されました。

枚方キャンパス医学部棟加多乃講堂や河川敷に設置された特設ステージでは、軽音楽部やフォークソング部による演奏、ダンス部による公演など、2日間にわたって多彩な企画が繰り広げられました。

また、今年も各クラブや各学部、留学生による模擬店が出店されました。各団体の個性が存分に発揮され、盛況を見せました。



軽音楽部によるステージ

## ひらめき☆ときめきサイエンス

令和3年11月20日(土) 14時20分から枚方キャンパス医学部棟1階オープンラウンジなどにおいて「ひらめき☆ときめきサイエンス『光のメス』放射線で治す最先端がん治療」が開催されました。これは最先端の研究成果に触れることで、科学のおもしろさを感じてもらうプログラムとして独立行政法人日本学術振興会が公募しているもので、本学では平成30年から実施。本年は中学生高校生が15名参加しました。

実施代表者である放射線科学講座中村聡明准教授の司会でイベントが進行し、放射線についてのクイズや講義で基本知識や放射線を用いたがん治療について理解を深めました。また、附属病院放射線部とシミュレーションセンターでの体験実習では普段見ることのできない放射線を可視化した実験やシミュレーターを使用した実習を通して医療の現場を体験。全体でのディスカッションでは参加者から医師に対して医師になるためにはどのような

勉強が必要かなどの質問が投げかけられ、将来をイメージすることにもつながった様子が見られました。最後に修了証書が手渡されプログラムは盛況のうちに終了しました。



シミュレーターを使用した体験実習

## ヴィリニウス大学 (リトアニア) との合同講義

外科学講座(関本貢嗣主任教授)では令和3年11月から、本学と国際交流協定を締結しているリトアニア共和国のヴィリニウス大学との合同の学生講義を開始しました。本学の医学部5、6年生と先方の医学生を対象に日本側とリトアニア側で交代に講師を務めて2週間ごとに英語で講義を行っています。

12月6日(月) 16時からは枚方キャンパス医学部棟4階カンファレンスルームCにおいて、ヴィリニウス大学側とZoomで接続して講義が行われました。橋本大輔診療講師の司会のもと、里井壯平診療教授が講師を務め、臓器疾患の外科治療について解説。講義後は本学の学生や先方の出席者との間で、英語での質疑応答が行われました。その後、英語教室のラウール・ブルーヘルマンズ教

授により学生への振り返りを行い、英語プレゼンテーションの注意点について指導しました。



本学側の講義の様子

## 研究最前線

社会にもインパクトを与える大型研究。本学の研究者の活躍の一端をご紹介します。

### 難治性がん克服に対する臨床研究と 基礎研究の両立を目指して —新規の革新的治療法の実現へ—

医学部 外科学講座 海堀 昌樹 診療教授

#### —先生の研究について教えてください。

私は現在肝胆道領域の外科治療に特化した診療科で手術中心の診療を行っています。経口抗ウイルス薬によりC型慢性肝炎は根治し日本では肝臓がんの発生が減少していますが、我々の施設では手術症例は逆に増えています。また肝内および肝門部胆管がん手術症例が最近かなり増加しておりますが、これらの肝臓・胆管がんは手術で対応できる患者さんは全体の2-3割程度であり、それ以外は進行がんで発見される場合がほとんどです。これらの患者さんに対しては保険診療である抗がん化学療法が実施されますが、がん克服としての効果はまだ不十分です。これら難治性がん克服に対する臨床研究と基礎研究を同時進行で行い、基礎研究から臨床応用を目指したトランスレーショナルリサーチ、つまり新規治療法への実現に向けた基礎研究を最重要と考え、実践しています。

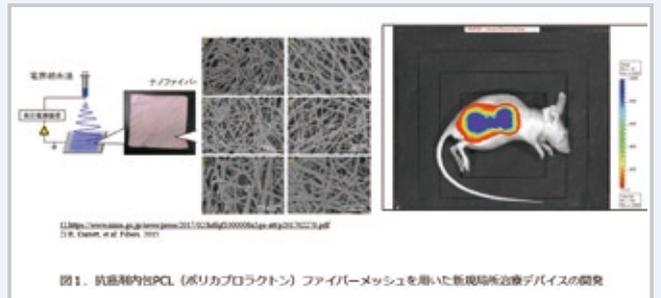
#### —それぞれどのような研究なのでしょう。

最近の代表的な臨床・基礎研究を4つお示します。

ICG (インドシアニングリーン) 蛍光イメージングによる肝・胆道腫瘍治療への応用について、5-ALA (アミノレブリン酸) による蛍光イメージングを同時に併用することで手術前のCT/MRI検査でも発見できなかった、微小がん病変を可視化でき、正確な手術中診断が可能となることで、より根治性の高い手術が実現する可能性を導きました。これまで以上に安全かつ的確な肝臓切除術が実現可能となり、肝がん治療成績の向上に寄与することが期待されます。また、外科大学院生(津田匠医師、菱川秀彦医師)とともにICG-Lactosomeがマウス肝がんおよび胆嚢がん診断と光線力学的治療に有効であることも発見しました。現在は、低容量の抗がん剤を光感受性リソソームに包埋することにより光免疫治療効果を向上させることができる「抗がん剤内包型フタロシアニン修飾リソソーム」の開発を行い、石塚まりこ大学院生とその効能効果を検討しており、将来の難治性肝・胆道がんに対する新たな診断・治療法開発の検討を行っていきたく考えています。

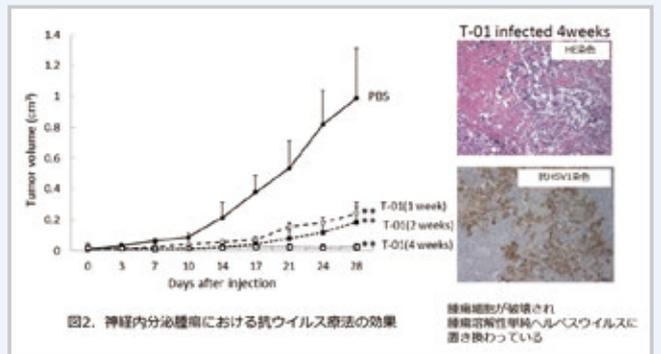
進行がんに対する通常の抗がん化学療法レジメンでは高頻度での副作用が出現し、十分量の抗がん剤を投与できない場合が多く、休薬を余儀なくされる場合があります。そこで我々は、ファイバーメッシュに抗がん剤を組み込んだ抗がん剤内包PCL (ポリカプロラクトン) ファイバーメッシュを用いた新規局所治療デバイスの開発を行っています。これは抗がん剤を内包させたメッシュを直接がん局所に貼付するもので、全身投与と比較して極端に少ない抗がん剤使用量で抗腫瘍効果発現、さらに抗がん剤特有の副作用を軽減できることを明らかにしました。化学療法剤の効果的な治療に資する新規治療デバイスの開発を目指しています(吉田明史医師)(国立研究開発法人物質・材料研究機構荏原充宏先生との共同研究)。(図1参照)

次にこれまでの約10年間研究に携わってきたウイルス療法ですが、これは東京大学医科学研究所の藤堂具紀教授との共同研究



です。腫瘍細胞内で選択的に複製して細胞障害性を示す腫瘍溶解性単純ヘルペスウイルス:Oncolytic HSV 1 (oHSV) ががん治療に有効な可能性があることを、我々は肝臓がん、神経内分泌腫瘍、肉腫モデルマウスで実験し論文化してきました。oHSVは正常細胞を障害せず、腫瘍細胞を特異的に破壊します(図2参照)(松島英之医師)。本年6月には悪性神経膠腫を適応症とした再生医療等製品(一般名 テセルバツレブ、製品名 デリタクト注)として厚生労働省から条件付きで製造販売が承認されました。今後、我々の肝臓がんにおいて近日中に第I・II相試験の開始を期待しています。

最後に臨床研究についてお話させていただきます。外科手術後には必ずと言っていいと思いますが、腹腔ドレーンを挿入します。また手術によっては小腸に挿入する栄養チューブや胆汁ドレナージ、これらのチューブを固定するにはすべて絹糸などで患者さんの皮膚と直接、数点結紮し固定します。手術後早期に抜くならいいですが、1週間、また長い場合は手術後約3か月間皮膚にチューブが縫われた状態で固定されます。どうみても「痛い」と思いませんか?そこで私たちはノナート(代用皮膚)を開発しました。ノナートは皮膚貼付用テープの上にスポンジ状のエラストマーが貼り合せてされており、また、このエラストマーの下から、カテーテル、チューブを縫合固定するため約30cm長の2-0絹糸の縫合糸が装着されています。従来の絹糸を用いた各種チューブの皮膚固定は、固定部の痛み、



皮膚炎およびその後の癍痕形成を認め、特に1か月以上のチューブ長期留置例には、痛みおよび皮膚損傷は顕著であり、ノナート使用による外科系各種チューブ固定は患者疼痛、創部感染、および術後の早期回復促進のためにも推奨されるものと考えています。関西医大発のクラス1一般医療機器であるノナートが日本をはじめ全世界の患者さんへ広がることを期待しています。

(図3参照)

その他、現在社会連携講座にて、水素吸入療法、新規がんワクチンの開発、骨格筋電気刺激によるサルコペニア予防改善などの基礎・臨床研究を行っています。

一後輩へのメッセージを

私は新しい手術術式開発、新しい医療機器開発へのトランスレショナルリサーチが、外科学の発展のためには必須のものと考え、臨床および基礎研究を行ってきました。病態の原因解明のための基礎研究は極めて重要です。診療でのclinical questionを解明するためには教科書などの成書に書かれていないことが現在も数多



図3. ノナート（代用皮膚）の開発

く存在しています。若い先生方へは臨床研究と基礎研究、ともに興味のある医学研究者になっていただきたいです。大学院生にとっては3~4年間の短い研究期間と思いますが、世界の同世代と勝負する覚悟で研究に挑んでいただきたい、失敗を恐れずに誰も挑戦していないことに果敢に挑んでいただきたいと思います。

- 関西医科大学在職中(1999~2021年度)における研究費等総額
- 競争的研究費：2億2811万円
- その他の研究費/助成金等：1億1907万円

研究費などの採択歴

■ 科研費<抜粋>

- ・ 2018-2021年度 インドシアニングリーン・ラクトソームを用いた胆嚢癌に対する新規治療法の開発 代表者 交付金額：4,420千円 研究種目：基盤研究(C)
- ・ 2019-2021年度 肝細胞癌における腫瘍内不均一性の定量的評価による病態の解明 分担者 交付金額：780千円 研究種目：基盤研究(C)
- ・ 2017-2019年度 増殖型遺伝子組換えヘルペスウイルスを用いた神経内分泌腫瘍に対する新規治療の開発 分担者 交付金額：1,500千円 研究種目：基盤研究(C)
- ・ 2015-2017年度 癌根治手術のための光プローブを用いた迅速定量病理診断法の開発 代表者 交付金額：4,810千円 研究種目：基盤研究(C)

■ 厚生労働科学研究費<抜粋>

- ・ 2020-2023年度 がん対策推進総合研究事業 補助金 がん患者に対する効果的かつ効率的な意思決定支援に向けた研究 分担者 交付金額：900千円
- ・ 2018-2020年度 がん対策推進総合研究事業 補助金 高齢者がん資料指針策定に必要な基盤整備に関する研究 分担者 交付金額：1,400千円
- ・ 2017-2019年度 がん対策推進総合研究事業 高齢者のがん医療の質の向上に資する簡便で効果的な意思決定支援プログラムの開発に関する研究 分担者 交付金額：2,500千円

■ AMED日本医療研究開発機構研究費<抜粋>

- ・ 2020-2021, 2016-2018年度 再生医療実用化研究事業 C型肝炎ウイルスに起因する肝硬変患者に対するG-CSF動員自家末梢血CD34陽性細胞の経肝動脈投与に関する臨床研究 分担者 交付金額：33,804千円
- ・ 2019-2021, 2016-2018年度 革新的がん医療実用化研究事業 がん治療中のせん妄の発症予防を目指した多職種せん妄プログラムの開発 分担者 交付金額：14,100千円
- ・ 2018-2020, 2015-2017年度 革新的がん医療実用化研究事業 革新的抗がんウイルス療法の実用化臨床研究 分担者 交付金額：8,900千円

■ その他の研究費など<抜粋>

- ・ 2020-2021年度 東京大学医科学研究所共同研究費 ヒト肉腫に対する増殖型遺伝子組換えウイルスを用いた新治療法の開発研究 代表者 交付金額：1,150千円
- ・ 2019年度 財)藤井節郎記念大阪基礎医学研究奨励会研究助成金 障害肝合併細胞がん患者の肝切除術後における患者運動能力 および運動療法介入臨床的意義の検討

代表者 交付金額：2,000千円

- ・ 2018年度 関西医科大学同窓会和田喜代子優秀業績賞 肝癌研究会追跡調査よりみた高齢肝細胞癌に対する外科的切除の意義 代表者 交付金額：1,000千円
- ・ 2016-2018年度 東京大学医科学研究所共同研究費 ヒト肝細胞がんに対する増殖型遺伝子組換えウイルスを用いた新治療法の開発研究 代表者 交付金額：1,288千円

■ 講座の設立

- ・ 次世代低侵襲外科治療学講座費(寄付講座) 2015~2021年度 総額65,000千円
- ・ サージカルサイエンス社会連携講座2020~2021年度 総額45,800千円

■ 特許取得

- ・ 名称：手術支援システム及びコンピュータプログラム 出願人：関西医科大学、立命館  
取得：特許 第6032517号(登録日：2016/11/4)
- ・ 名称：パッチ、固定方法 出願人：関西医科大学  
取得：特許 第6709468号(登録日：2020/5/27)

■ 略歴

- 平成 3年 3月 関西医科大学 卒業
- 平成 9年 4月 京都大学 医学部移植外科国内留学
- 平成19年 4月 関西医科大学 外科学講座 助教
- 平成21年 4月 関西医科大学 外科学講座 講師
- 平成25年 4月 関西医科大学 外科学講座 准教授
- 平成27年 4月 関西医科大学次世代低侵襲外科治療学講座(寄附講座)准教授(兼任)
- 平成27年 4月 関西医科大学 臨床研究支援センター副センター長
- 平成28年10月 千葉大学 フロンティア医工学センター特別研究准教授
- 平成30年 8月 関西医科大学 外科学講座 診療教授  
関西医科大学 次世代低侵襲外科治療学講座(寄附講座)教授(兼任)
- 令和 2年 7月 関西医科大学 サージカルサイエンス社会連携講座 教授(兼任)

■ 所属学会(役職/資格等) 抜粋

- ・ 日本消化器外科学会(評議員/日本消化器外科学会 医療事故調査外部委員)
- ・ 日本肝胆膵外科学会(評議員/技術認定委員会委員/高度技能指導医)
- ・ 日本肝臓学会(評議員/ガイドライン改訂委員会委員)日本高齢消化器病学会(評議員)
- ・ 日本外科代謝栄養学会(理事/評議員/日本外科代謝栄養学会 術後管理検討委員会 委員長)
- ・ 日本外科感染症学会(評議員) 日本臨床外科学会(評議員)
- ・ 環太平洋外科系学会日本支部(理事) 日本門脈圧亢進症学会(評議員)

## 令和3年度救急医療功労者厚生労働大臣表彰



救急医学講座鉦方安行教授が令和3年度救急医療功労者厚生労働大臣表彰を受けました。

この表彰は、厚生労働大臣が、都道府県知事の推薦のもと、長年にわたり地域の救急医療の確保、救急医療対策の推進に貢献した個人や医療機関等の団体の功績をたたえるものです。なお表彰式は新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から開催されず、受賞者には後日、表彰状と盾が送られました。

### ◆ 鉦方教授コメント

今般、望外にも厚生労働大臣表彰の栄に浴することができました。この栄誉は、長年の圏域・地域救急への貢献に対するものであり、日頃からともに救急医療に携わってくださっている多くの皆さまのお力添えあつての賜物と承知しております。ここに深く感謝申し上げるとともに心より御礼を申し上げます。

## 令和3年度医学教育功労者表彰について



令和3年11月3日(水・祝)に開催された大阪府医師会創立74周年記念式典において、内科学第一講座野村昌作教授が令和3年度医学教育功労者として茂松茂人大阪府医師会会長から表彰状を授与されました。

本賞は毎年大阪府医師会会員に対して教育・研究を通じて貢献した医師会会員に贈られるもので、本学からは10年ぶり4人目の受賞になります。

### ◆ 野村教授コメント

本賞は、毎年度大阪府にある大学医学部から1名選出される名誉ある賞であります。今回のこのような賞を頂けたのも、山下理事長、友田学長をはじめとする関西医科大学の諸先生方のおかげと感謝申し上げます。ありがとうございます。今後も関西医科大学の一員として、診療と教育に精一杯頑張っております。

## 令和3年度救急医療功労者大阪府医師会会長表彰



看護学部子ども看護学領域大橋敦准教授が一般社団法人大阪府医師会から令和3年度救急医療功労者大阪府医師会会長表彰(個人)を受けました。

この賞は、救急医療業務で優れた功績がある個人・団体へ贈られるもので今年は新型コロナウイルス感染症の感染状況を考慮し式典は中止され、大橋准教授は個別で大阪府医師会茂松茂人会長から表彰状を受け取りました。

### ◆ 大橋准教授コメント

今回の受賞は、大阪府下の分娩施設で勤務されている産科医、看護師、助産師を対象とした新生児蘇生法講習会をご評価頂けたことによります。このような栄誉ある賞を頂けたのも、大阪府の新生児相互援助システム(NMCS)所属の新生児科医の先生方が多忙な日常診療にも関わらず講習会に協力して下さったお陰であり、心から感謝申し上げます。これからも、妊婦さんが安心して元気な赤ちゃんが産出できるように、新生児蘇生法の普及に努める所存です。

## 医学部5回生三浦さん、緒方さんが第17回日銀グランプリ～キャンパスからの提言～で奨励賞を受賞

医学部5回生三浦雅郁さんと緒方隼さんが「第17回日銀グランプリ～キャンパスからの提言～」で奨励賞を受賞しました。これは日本銀行が、大学生を主な対象として金融・経済に関する提言を募集したものです。

テーマ／『農福医連携による持続可能社会創生の提言』

### ◆ 三浦さんコメント

現在、世界的な潮流として農業に対する補助金は歓迎されていません。しかしながら、資本主義社会において農業とは重要な国家の生命線でありながら不採算産業となりやすい分野です。そこで、ポストコロナにおける流通の混乱を考えると、福祉と農業を融合させ農業の新しい形態を生み出すべきだと考え今回論文を送りました。自らの考えが世に通じるとわかり、非常に感慨深いです。

### ◆ 緒方さんコメント

医系技官養成コースに参加しており、地方の抱える問題を医療福祉制度の側面から改善できないかという問題意識から農福医連携というアイデアに行きつきました。議論しつつ論を練る作業は大学ならではの作業だと思います。

## 医学部5回生三浦さん、緒方さんが第2回一般社団法人ICTマネジメント研究会学生小論文アワードで特別賞を受賞

医学部5回生三浦雅郁さんと緒方隼さんが「第2回一般社団法人ICTマネジメント研究会 学生小論文アワード」で特別賞を受賞しました。このアワードは一般社団法人ICTマネジメント研究会が、コンピューター技術の高度な利用、活用の推進を目的として2019年に設立したと同時に、法人事業の実現と学生研究者に対する支援のため創設したものです。

テーマ／『介護保険サービス給付におけるレクリエーションの問題点と解決のためのICT導入』

### ◆ 三浦さんコメント

昨今少子高齢化が進む中で介護施設の改革が求められています。ICTによる介護施設の改革について、自分たちなりに考えた結果の受賞であったが故に、今後医療人として自らの頭と脚でこの問題に向き合っていきたいと思います。

### ◆ 緒方さんコメント

自分の困りごとが多くの人にとっても困りごとであることが往々にしてあります。介護に関する課題をオンライン会議システムを流用して解決できるのではと論じたところ、思いがけず高い評価をいただいたようです。

## 医療ニーズ発表会を開催

令和3年10月21日(木) 17時から、枚方キャンパス医学部棟4階中会議室からのオンライン配信形式で「医療ニーズ発表会」が開催されました。これは学内教職員から募った医療ニーズを、ニーズの新しさ・技術の難易度・商品性等の観点から選抜し全国の製販企業に向けて発信するもので、産学連携による医療ニーズの社会実装化の取り組みです。友田幸一学長の挨拶に続き、昨年度の発表会でのニーズ発表を機に企業と共同で開発を行い製品化にいたった麻酔科学講座大井由美子診療教授およびパートナー企業への表彰が行われました。

表彰後は、全71件応募されたニーズの中から、選抜された29件について発表が行われました。



表彰された大井診療教授(中右)、友田学長(右)とパートナー企業担当者

## 病院

### 附属病院 **がん教育講演会**

令和3年11月19日(金) 14時25分から枚方市立第三中学校体育館(枚方市)において、放射線科学講座中村聡明准教授が中学2年生230名を対象にがんについての出張事業を行いました。これは大阪府が進める学校教育でのがん啓発活動の一環としての取り組みで、がんに関する知見の社会還元を目的としたものです。

授業では、がんに関する基礎知識からがんの原因、がんの予防などについてクイズを交えながらわかりやすく解説。子宮頸がんなどの原因になるヒトパピローマウイルスに対するワクチンなど中学生に直接関係のある話や検診の重要性やがんの治療方法など家族へ共有してほしい内容も盛り込まれており、出席した中学生は真剣な面持ちで聞き入っていました。



講演を行う中村准教授

### 総合医療センター **糖尿病デーフェスタ開催**

令和3年11月6日(土) 14時から、総合医療センター本館1階において「世界糖尿病デーフェスタ2021糖尿病と新型コロナウイルスwithコロナの時代にできること～」が開催され、患者さんやそのご家族など20名が来場しました。衛生・公衆衛生学講座西山利正教授が「糖尿病と新型コロナウイルス～withコロナの時代にできること」と題した講演を行った他、健康科学センター西江萌希健康運動指導士による運動実演「今日からできる！運動でコロナ感染予防！」が行われました。そのほかにも血糖測定、展示コーナー、医師相談、インスリン体験などのコーナーが設けられ、熱心に説明を聞いたり体験に取り組んだりする参加者の姿が見られました。



来場者の健康相談に応じる医師

## 総合医療センター 大阪コロナ重症センターの開設について

令和3年12月1日(水)に、大阪府の要請を受けて総合医療センター施設内に整備を進めてきた、新型コロナウイルス感染症の重症患者治療施設、「大阪コロナ重症センター」を開設しました。

### 【施設概要】

①施設名：関西医科大学・大阪コロナ重症センター ②設置場所：総合医療センター施設内 ③専用病床数：20床

## 総合医療センター 抗体治療バックアップ病院への登録について

総合医療センターは、大阪府が整備する新型コロナウイルス感染症患者等受入医療機関以外の医療機関が、自宅療養者等に中和抗体薬を投与する場合にバックアップ(病態悪化時の抗体治療医療機関からの相談及び、容体急変時の緊急の入院受入等)をする病院として令和3年10月に指定され、抗体治療バックアップ病院として登録されました。

## 香里病院 日曜乳がん検診（ピンクリボン）開催

令和3年10月17日(日)9時から13時まで、今年4月に開設された乳腺センターが中心となり、日曜乳がん検診を実施しました。

昨年に引き続き、認定NPO法人J.POSHがJ.MS<sup>®</sup>(ジャパン・マンモグラフィ・サンデー)と称して取り組む「毎年10月第3日曜日に乳がん検診マンモグラフィ検査を受診できる環境づくり」に賛同して実施し、当日は24名が受検しました。



当日の集合写真：乳腺センター長 綿谷正弘理事長特命教授(右端)

## くずは病院 第1回整形外科紹介症例検討会

令和3年10月22日(金)19時から、くずは病院2階地域医療連携ラウンジにおいて、第1回整形外科紹介症例検討会を開催しました。来院したクリニックからの紹介症例を中心に、質疑応答形式で症例報告を行いました。またクリニックからの要望に応え、症例報告に加え、症例検討会を実施しました。参加した医師からは質疑が活発に行われ、参加者は熱心にメモを取り、耳を傾けていました。

### 【参加クリニック】 順不同

- こそか整形外科・リウマチクリニック：小坂 理也 院長
- ねぎ整形外科・リウマチクリニック：根木 陽一郎 院長
- こうの整形外科：河野 弘昭 院長
- 市岡整形外科：市岡 直也 院長

## 研修医プログラムフルマッチング

令和3年10月28日(木)、医師臨床研修マッチング協議会により医師臨床研修マッチングの結果が公表され、本学の令和4年度採用者が確定しました。本学では100%のフルマッチとなりました。これは令和3年8月6日(金)および8月13日(金)、枚方キャンパスにおいて行われた「令和4年度研修医採用試験」の結果を受けてのものです。

## 本学教職員編著作物の紹介

令和3年1月～12月に発行された本学教職員編著作物を紹介します。 ※判明分のみ

- 『“口腔咽頭・頸部”私のday & short stay surgery -コツと経験-』  
耳鼻咽喉科・頭頸部外科学講座 岩井 大 教授  
編集・監修(企画編集) 出版 全日本病院出版会 発行 令和3年6月18日
- 『大学病院・肥満外来の教授が教える 1日だけダイエット』  
健康科学教室 木村 穰 教授 著  
出版 文響社 発行 令和3年7月13日



## 学会主催報告

令和3年10月～12月、本学が主催および事務局を務めた主な学会を紹介します。

### 第34回日本口腔・咽頭科学会総会・学術講演会

■会期 令和3年9月2～3日 ※オンデマンド配信は9月17日～10月1日

■場所 ナレッジキャピタル コングレコンベンションセンター

■テーマ 進化と躍進

口腔に広がる味覚に舌鼓をうち、のどごしを楽しみ、喜びを噛みしめ、そして、すやすやと眠る…日本口腔・咽頭科学会の運営目標です。味覚低下、嚥下障害、口腔・咽頭・唾液腺の腫瘍や感染・機能障害、咽頭狭窄(いびき・睡眠呼吸障害)をいかに予防するか、どう容易に治療するかについて研究を重ねています。学会当日は新型コロナ第5波のピークでしたが、例年を上回る参加登録者数でした。このたび理事長に就任させて頂きました。

【会長：耳鼻咽喉科・頭頸部外科学講座 岩井 大 教授】



### 第57回日本医学放射線学会秋季臨床大会

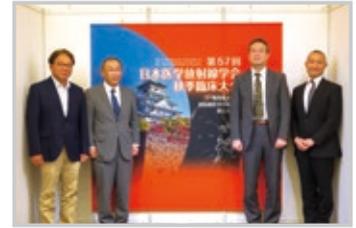
■会期 令和3年9月17～19日 ※オンデマンド配信は10月4日～31日

■場所 ナレッジキャピタル コングレコンベンションセンターを基地局とするWEB開催

■テーマ 新時代を担う放射線医学の展望と新たな挑戦

LIVE配信は9月17日(金)から9月19日(日)まで、オンデマンド配信は10月4日(月)から10月31日(日)まで開催されました。本学会は日本医学放射線学会の全国学会の1つとして位置づけられ、学会員に対する教育を中心とした学会です。新型コロナウイルスの感染拡大防止の観点より完全WEB形式にて開催されました。それにも関わらず5,300名の方が参加されました。特別講演、シンポジウム、教育講演、一般演題等に加え、フィルムリーディングセッションなど盛りだくさんの内容で、ご参加いただいた先生方には大変好評でした。ご協力いただきました皆様に心より感謝いたします。

【大会長：放射線科学講座 谷川 昇 教授】



## 学会賞等受賞情報

令和3年10月～12月の学会賞受賞者等を紹介いたします。

#### 女性研究者賞

形成外科学講座 覚道 奈津子 教授

■テーマ ヒト脂肪幹細胞の特性解析と再生医療への応用

■授与学会 公益財団法人ソロブチミスト日本財団



#### 優秀演題賞

麻酔科学講座 大井 由美子 診療教授

■テーマ 全身麻酔を受ける小児の家庭での喫煙状況と保護者の環境たばこ煙に関する意識調査

■授与学会 日本小児麻酔学会第26回大会



#### 第23回論文賞

物理学教室 楠本 邦子 准教授

■テーマ 2007年～2017年の琵琶湖南湖における、溶存態かび臭物質2-メチルイソボルネオール の発生機構

■授与学会 日本水処理生物学会 第57回大会

#### 最優秀演題ポスター発表賞

看護学部 広域看護分野 在宅看護学領域

李 錦純 准教授

高橋 美沙子 助教、川寄 有紀 助教、

酒井 ひろ子 教授

■テーマ Covid19による看護系大学教員の研究活動への影響—予測分析による属性・ライフスタイル別の特性—

■授与学会 第41回日本看護科学学会学術集会



#### Young Investigator Award

小児科学講座 赤川 翔平 講師

■テーマ 小児における尿中細菌叢：その存在と病的意義の検討

■授与学会 第53回日本小児感染症学会総会・学術集会



#### 総会賞(ポスター部門)

腎泌尿器外科学講座 齊藤 亮一 講師

■テーマ 小径腎癌の周囲組織浸潤に関与する臨床的因子に関する後方視的検討

■授与学会 第35回日本泌尿器内視鏡学会総会



#### 優秀演題賞

看護学部・看護学研究科 老年看護学領域

金原 京子 講師

■テーマ 介護付き有料老人ホームにおける入居時から看取り期までのACPの実施状況

■授与学会 一般社団法人 日本エンドオブライフケア学会

#### 学術集会奨励賞受賞

腎泌尿器外科学講座 吉田 崇 助教

■テーマ 淡明腎細胞癌における好酸性領域は、新生血管阻害薬や免疫チェックポイント阻害薬の奏功と関連する

■授与学会 日本泌尿器腫瘍学会第7回学術集会



#### National Scholarship Award 2021 Best Abstract Prizes 2021

内科学第三講座 小林 三四郎 研究医員

■テーマ Intravenous Injection of Colon Cancer Extracellular Vesicles Suppresses Tumor Growth with Dampening Regulatory T Cell Phenotype

■授与学会 UEG Week Virtual 2021





## 教職員メディア情報

新聞・雑誌などの取材を受け記事が掲載された、あるいはテレビ・ラジオなどに出演した教職員ほかを紹介します。  
(主に令和3年10月1日～12月31日 ※判明分のみ)

看護学部 基礎看護学領域 山下 裕紀 准教授	朝日新聞 朝刊 (10月11日)	新型コロナウイルス感染症対応の応援で保健所の臨時職員として患者などに電話連絡をした経験について、自宅待機判断のため、症状について気を付けて聞いていたうえで「孤独に療養生活を送り怒りで表現する人も多く、職員の精神的負担も大きい」とコメントしたことが掲載されました。
医学部 眼科学講座 大中 誠之 講師	読売新聞 朝刊 (10月3日)	目の愛護デー(10月10日)にちなんでオンライン開催される「目のすべて展」に先立つ特集において、「加齢黄斑変性」の症状や発症要因、予防法、治療などについて述べた解説が掲載されました。
光免疫医学研究所	時事メディカル (10月11日)	光免疫療法の仕組みや本学に附属光免疫医学研究所を設置予定であること、米国立衛生研究所(NIH)小林久隆・主任研究員が所長に就任する予定などであることが「第5のがん治療」として光免疫療法が始まったことを取り上げた記事の中で掲載されました。
附属生命医学研究所がん生物学部門 坂本 毅治 学長特命教授	医療NEWS QLifePro (10月11日)	がんの悪性化や炎症性疾患に関わる分子「Mint3」の阻害化合物を同定し、マウスモデルでMint3阻害化合物が腫瘍増殖、転移、エンドトキシシンショックを抑制することを明らかにしたことが掲載されました。
医学部 耳鼻咽喉科・ 頭頸部外科学講座 藤澤 琢郎 講師	日本経済新聞 朝刊 (10月12日)	光免疫療法の特集記事で、藤澤講師が附属病院で同療法の治療を担当したこと、また2022年4月開設予定の関西医科大学附属光免疫医学研究所に小林久隆氏(米国NIH主任研究員)が所長着任予定であることと、同療法の詳細や今後の見通しなどが掲載されました。
関医・看護師リカレントスクール	NHK「ニュースほっと関西」 (10月18日)	第5期関医・看護師リカレントスクール入学式の様子や金子一成副学長の挨拶および受講生のインタビューが放送されました。
附属生命医学研究所がん生物学部門 坂本 毅治 学長特命教授	薬事日報 (10月20日)	坂本学長特命教授らの研究グループが、がんの増殖、転移、エンドトキシシンショックを抑える化合物Mint3を発見したことが掲載されました。
医学部 眼科学講座 高橋 寛二 教授	日経Gooday (10月27日)	加齢黄斑変性について取材を受け症状や原因、治療法などを解説した他、格子状のものを片目ずつ見るセルフチェックや薬物による早期治療を開始することが重要だと述べました。
附属生命医学研究所 侵襲反応制御部門 廣田 喜一 学長特命教授	プレジデントOnline (10月28日)	廣田学長特命教授らの研究グループが広島大学原爆放射線医科学研究所の研究グループらと共同で発表した「胃潰瘍治療薬やタバコの煙から抽出した物質が新型コロナウイルスのヒト細胞への感染を抑制すること」についての研究成果が紹介されました。
附属生命医学研究所分子遺伝学部門 池田 幸樹 助教	山形新聞 (11月10日)	慶應義塾大学先端生命科学研究所曾我明義教授らとの国際研究チームで、細胞内で合成された代謝物がどんな働きのために利用されるか、代謝経路を明らかにする手法を開発したことが掲載されました。
附属生命医学研究所分子遺伝学部門 池田 幸樹 助教	荘内日報 (11月12日)	慶應義塾大学先端生命科学研究所曾我明義教授らとの国際研究チームで、がん細胞で合成される代謝物がどのように細胞内で利用されているかを調べる手法を確立することを発表し、これにより特定の病気における代謝物利用経路の変化が明らかになり、創薬等への応用が期待されることが掲載されました。
医学部 法医学講座 橋谷田 真樹 准教授	中国放送「RCC NEWS」 (11月15日)	解決に向けて進展のあった事件に関連してDNA鑑定に関してリモート出演で解説し、その精度や犯罪捜査において注意すべき点について述べました。
医学部 法医学講座 橋谷田 真樹 准教授	NHK「お好みワイドひろしま」 (11月16日)	解決に向けて進展のあった事件に関連してDNA鑑定の実際の手法を紹介した他、鑑定の精度などについてを解説しました。
総合医療センター	読売新聞 朝刊、産経新聞 朝刊 (11月16日) 大阪日日新聞 (11月17日)	大阪府が整備を進めていた新型コロナウイルス感染症重症者専用の臨時施設「大阪コロナ重症センター」が完成し、運用が始まったことが紹介されました。
医学部 眼科学講座 高橋 寛二 教授	日経Gooday (11月26日)	糖尿病網膜症について取材を受け、症状の進行や治療法、失明に至る可能性があることを解説したほか、初期に自覚症状がみられにくいため糖尿病患者は定期的な眼科受診をするよう注意を促しました。
医学部 麻酔科学講座 大井 由美子 診療教授	産経新聞 朝刊 (11月29日)	医工連携により医療現場の課題を解決する製品として、株式会社アズワンと共同開発した乳幼児向け酸素マスク固定ベルト「O_腹巻」が紹介されました。
医学部 眼科学講座 山田 晴彦 准教授	毎日新聞 朝刊 (11月30日)	コラム「ご近所のお医者さん」に登場し、視覚障害とラジオについて寄稿しました。
光免疫医学研究所	医師協Times (12月1日)	小林久隆氏(米国NIH主任研究員・所長予定者)が光免疫療法について取材を受け、作用機序や開発までの道のりを解説したほか、副作用の少ない低侵襲な治療法であることや2022年4月開設予定の光免疫医学研究所を中心に同療法の展開していくといった見解が紹介されました。
医学部 小児科学講座 石崎 優子 准教授	朝日新聞 朝刊 (12月8日)	連載企画「どうしました」において起立性調節障害に関する読者の質問に回答し、症状や治療法、日常生活の注意点などについて解説しました。
医学部 健康科学教室 木村 穰 教授	m3.com (12月10、17日)	肥満外来について取材を受け、医師、管理栄養士、健康運動指導士、公認心理士の4職種がチームを組んで治療にあっていること、運動・食事指導、認知行動療法を組み合わせた治療法を取り入れていることなどが、2週にわたって紹介されました。
医学部 法医学講座 赤根 敦 教授	テレビ朝日 ドラマ「科捜研の女」(第9回) (12月16日)	二酸化炭素中毒について取材協力したドラマの放送がありました。
医学部 法医学講座 橋谷田 真樹 准教授	広島ホームテレビ「5up!」 (12月16日)	今年の事件事故をまとめた特集の中で、解決に向けて進展のあった事件に関連して、犯罪捜査におけるDNA鑑定の有効性、立証における注意点などについて解説しました。
医学部 脳神経外科学講座 浅井 昭雄 教授	関西医事新報 (12月20日)	ロングインタビューが掲載され、人材確保のために取り組んできたこと、この10年で見出した講座の特徴や強み、人材確保に一定の成果を得たうえで今後の課題などについて語った内容が紹介されました。
看護学部 精神看護学領域 三木 明子 教授	読売新聞オンライン (12月23日)	大阪北新地のクリニックで起きた放火殺人事件に関連して、小規模な医療施設は警備が手薄になりがちで狙われやすいとし「理不尽なクレームを言う患者については院内で情報共有するなど早期対応も必要」とのコメントが掲載されました。
関医・看護師リカレントスクール	NHK「ニュースほっと関西」 (12月23日) NHK「ニュースきん5時」 (12月24日)	第5期関医・看護師リカレントスクールでの実習や就職相談会の様子および受講生のインタビューが放送されました。
医学部 健康科学教室 木村 穰 教授	読売新聞 朝刊 (12月30日)	健康科学教室木村穰教授が、シニア世代のダイエットを取り上げた記事の中で、加齢などによって筋肉量が減少し全身の筋力が低下した状態で転倒や骨折につながるサルコペニアの危険性を訴え、筋肉を動かすことで分泌されるホルモンに脂肪燃焼を促すなど様々な働きがあることが分かっていることなどを解説しました。
医学部 小児科学講座 石崎 優子 准教授	時事メディカル (12月30日)	小児科学講座石崎優子准教授が、思春期に発症しやすい起立性調節障害(OD)の新しい治療法として身体活動の減少がもたらす悪影響に着目して運動療法の研究を進めていることや、クリニックや自宅などで使える運動機器の開発を目指してクラウドファンディングを行ったことが紹介されました。

## 《新型コロナウイルス感染症関連》

医学部 内科学第一講座 宮下 修行 診療教授	毎日放送「よんチャンTV」 (10月1日・12日・21日、11月12日・23日、 12月1日・7日・15日・24日)
医学部 内科学第一講座 宮下 修行 診療教授	関西テレビ「報道ランナー」 (10月14日、11月29日、12月14日・22日)
総合医療センター 大阪コロナ重症センター	毎日放送「よんチャンTV」 (11月15日)
医学部 衛生・公衆衛生学講座 西山 利正 教授	毎日放送「よんチャンTV」 (12月3日)

医学部 救急医学講座 中森 靖 診療教授	読売新聞 朝刊 (12月5日)
医学部 衛生・公衆衛生学講座 西山 利正 教授	朝日新聞 朝刊 (12月23日)
総合医療センター	NHK NEWS WEB (12月25日)

\*このコーナーは主要な放送局、新聞、雑誌の掲載情報が対象ですが、研究成果に関する記事は、その限りではありません。

## 編集後記

新年あけましておめでとうございます。令和3年もまた新型コロナウイルス感染症の話題が出ない日はないほど影響を受けた一年でした。しかしながらワクチンや治療薬の開発など、人は以前の生活を取り戻す術を携へつつあるように思います。

新しい年の幕開けに、寒さも相まってつい俯きがちな顔を上げ、何か一つ目標を立ててみるのもよいかもかもしれません。皆様にとって良い一年となりますよう、心から祈念いたします。  
(M)

## 関西医科大学広報 Vol.56

発行 学校法人 関西医科大学  
編集 広報戦略室

〒573-1010 大阪府枚方市新町2-5-1 TEL 072-804-0101(代表)  
FAX 072-804-2638

<https://www.kmu.ac.jp/>  
E-mail:kmuinfo@hirakata.kmu.ac.jp

令和4年1月19日(水)発行